佐賀の食育をはぐくむネットワークづくり
～農業の魅力をひろげたい！！～

ＪＡさが佐賀市支部青年部鍋島支部
西久保　弘克

皆さん、こんにちは。ＪＡさが佐賀市支部青年部鍋島支部の西久保弘克です。

私たちの所属する、佐賀市鍋島町は、佐賀県のほぼ中心にあり佐賀市の北西部に位置し、幼・保育園が７園、小学校２校、中学校１校、ろう学校１校、佐賀大学医学部１校、障害者施設３施設、隣接に高等学校２校等があり、佐賀県内でも有数の人口が多い地区です。

鍋島青年部盟友は４１名で、専業農家１０名、兼業農家３１名で構成しています。米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業と、玉ねぎ・露地野菜等との複合経営、施設ハウスではアスパラ・イチゴ等の栽培を行っています。

私たちは当地区の特性を活かして、農商工連携をもとに「農業の魅力を拡げたい！！」という思いから佐賀の食育をはぐくむネットワークづくりに着目し、活動しています。

私たちは、次世代育成・地産地消の観点から

１．小学校では、大豆１００粒運動
２．保育園・幼稚園では、いも掘り体験・収穫後の大豆拾い
３．技術支援では、障害者の方に農作業の技術支援や健常者との交流
４．身近な食育活動では、直売所を利用した、盟友の作った野菜の販売を通した中学生の職場体験

等といった４つの取り組みを現在行っています。

まず一つ目の取り組み、小学校への大豆１００粒運動について説明させて頂きます。

大豆１００粒運動とは、「子供たちが大豆を育て、さまざまな経験をする中で、生きる力を身につけてほしい」との思いから料理研究家の辰巳芳子さんが提唱する食育運動です。

子供たちが両手の掌に乗る１００粒の大豆を播き、育て、観察し、収穫後に農の恵みを味わい、食を学ぶ取り組みであり、長野県を中心に全国各地に広がっています。

佐賀市では、佐賀県内の他市町村に先駆けて平成２１年から取り組みを始めて、県内では平成２７年には１５校まで増え、平成２６年１０月までに２３，０４８名の子供たちに取り組んでもらいました。

佐賀市の取り組み初年度から、鍋島青年部は鍋島小学校、翌年には開成小学校への食育指導を現在も行っています。

また、佐賀独自の循環型食育運動では、１年間を通して農業に携わり、１次産業から６次産業までを体験学習します。５月から６月初旬に事前学習会を行い、７月は大豆の種まき、８月は大豆の草取り、９月は圃場での環境学習、１０月初旬には枝豆収穫とフリー参観デーでの枝豆販売、１１月下旬の大豆収穫と収穫後の加工品として豆腐、きな粉、おからづくり、スーパーでの納豆販売へ向けたラベル作り、翌年１月から２月にかけて販売に向けた接客体験・ポップ作り、２月に納豆販売を行います。３月には、次の学年の子供たちへの大豆継承式までを行い、おからクッキー等と一緒に自分達で栽培した種子を手渡します。

納豆販売では、地元のスーパーの方や保護者の協力も頂き、毎年佐賀市内で約１０，０００個の販売を行っています。

毎年、鍋島小学校では約１，３００個、開成小学校では約１，０００個を完売しています。

このような食育指導を行っていたなか、平成２３年３月に東日本大震災が発生しました。

私たち鍋島青年部は翌年の活動の中で、同じ原発立地県の農業者として震災から一年経過した「東北における今後の農業のあり方を知りたい！！」「被災地の皆さんを応援したい！！」という思いから仙台行きを決定しました。

支援物資を何にするのか、みんなで考えました。

水・食料・衣料品・現金などさまざまな意見が出されましたが、「被災地の皆さんを元気にするためには何か」を深く考え、鍋島小学校の子供たちに相談したところ、子供たちは、「自分たちが育て、収穫した大豆を東北の子供たちに渡して欲しい！そして、芽が出て大豆になる生命力を感じて欲しい！！」と言ってくれました。

私たちは子供たちのその願いをきき、約１０キロの大豆を持っていきました。

仙台市を訪問し、その届けた大豆は仙台市の作並小学校、東六郷小学校へ渡りました。その後、両校では大豆栽培に取り組み、大豆を収穫することが出来ました。

また、子供たちの栽培する姿とすくすく伸びる大豆を見て大人の方々も元気付けられたと聞いています。子供たちのお礼の手紙や新聞も届きました。

この交流は現在も継続しており、食育を通じた輪が広がっています。

二つ目の取り組みは、

幼・保育園の園児さんたちの芋ほり体験や、枝豆の収穫・大豆収穫後の大豆拾い等です。この取り組みは

１．土と親しみ楽しい農業体験

２．おいしい食育

３．保護者にも「農」・「食」への理解

を目的としています。園児さんとともに保護者の皆さんへ楽しい農業、おいしい食育を伝えることで私たち農業者への理解を促し、農業を通じた地域の連携・活性化に繋がると考えています

三つ目の取り組みは、

技術支援の観点から町内の障害者の方、退職後の高齢者の方々に農地提供・技術支援・販売支援・地域連携(交流)を目的としています。

普段は、障害者の方や高齢者の方々と触れ合う機会の少ない、地域の幼・保育園の園児や保護者の皆さんたちと障害者の方、高齢者の方々が作った作物の収穫を一緒に行い、地域連携に取り組んでいます。

一つの例に、ろう学校の５年生の児童さん１名から「自分も大豆の授業を受けたい！」と希望があり、盟友の協力により圃場から大豆を抜き、枝豆の状態を持って行き、種まきから大豆になるまでの授業を先生の手話を介して行ったりもしています。私たちは、一人の児童の想いも大切にし、取り組んでいます。

四つ目の取り組みは、

身近な食育として青年部盟友が経営する直売所を起点として

１．　高齢者の食の支援

２．　家庭菜園の普及

３．　加工所の活用

等を目的として、地域住民とのふれあい、地域内及び隣接の小学校・中学校・高校・大学を含む地域のよりどころとなる様に活動を行っています。

・高齢者の方が気軽に立ち寄れる場所

・他県からの大学生に対する料理指導・料理レシピの提供
・家庭菜園の方々への技術支援やアドバイス等
・加工所を活用しての６次産業の活性化、その中でも中学生には職場体験を通じた食育を目指しています。中学生の職場体験では、直売所へ商品を持ってくる生産者から直接話を聞いたり、実際の生産現場への見学まで行っています。

このような取り組みを行っていくうえでＪＡさが西部支所の支えも大きな力になっています。青年部ＯＢ、ＪＡさがの方々からのアドバイスや、月に一度の会議会場の準備など、ＪＡの協力なくしては、私たちだけでは行えないと思います。

最後に、ＪＡさがと連携をとりながら今後私たちが発展していく為に欠かせない今後の取り組みは、私たちが『大きな使命』として考えている「農業後継者の育成」と「近隣の方々への農業に対する理解を促す」です。
「農業後継者の育成」は、国内県内を問わず食料自給率の向上・農業を通じたお祭りなど伝統継承・身近な食を通じた地産地消・田園風景を残すことによる郷土への愛着へと繋がるものだと考えています。
また、後継者の方たちには、
・経営者としての自覚、収入の安定、高収入を目指して経営基盤の確立
・かっこいい農家、農業体験を通じて将来の子供たちが憧れる職業
・見聞を広める観点から社交性をたかめ企業型農業への転換を図り農業に理解のある配偶者の確保
・技術指導、農地の確保、機械のリース等を行い退職後の就農支援
といった体制を作り上げることで、魅力ある農業を意識してもらえると考えています。

また、「近隣の方々への農業に対する理解を促す」上での課題として、
・夜の作業時における農業機械の騒音
・水稲防除時の消毒では、ヘリコプターや粉剤による農薬の飛散
・籾摺り時の音や埃
・土作りの為の堆肥の臭い
　等があります。
この地で農業をやり続ける為には、私たちの世代で近隣の方々への理解を促していく事が大きな使命の一つだと考えています。

私たち鍋島青年部では、

食に対する地域の活性化と、農業後継者の育成。

地域の特性を活かした農商工連携を通じて農家への理解を積極的に取り組みでいきたいと思います。